

「快適」や「便利」ばかりを追い求めると

本当の豊かさを見失う

本当の幸せとはなんですか

数日前から居間兼書斎で使用している石油ストーブの調子がおかしい。点火のスイッチを入れても、着火ミスのサインが出て、一回では点火しなくなった。二回から三回スイッチを入れ直して、やっと運転開始の状態であった。

もう十六年も使用しているストーブなので、流石に調子が悪くなってきたのかなと思いつつも、まだ暫くは大丈夫だろうと高をくくっていた。

ところが、今朝早くから、とうとう何度スイッチを入れても着火しなくなってしまった。

ついに壊れてしまったか、冬本番に突入してきたというときに、困ったものだ。買い換えなければと思いつつ、ふと昔のことを思い出した。

筆者の幼い頃は、まず薪ストーブ。それから、石炭を燃やすルンペンストーブ（今でもこの名称で売られています）を我が家では使っていた。家族で助け合いながら、このストーブに石炭を入れ、次に燃やす準備をしたものだったが、幼い身には石炭とこのストーブ

ブが重かった。

この石炭を燃やすストーブは、燃え終われば煙突からストーブごと取り外し、石炭を入れ直しておいたストーブをまた煙突に付け替える。はずしたストーブは冷えたら灰を捨て、石炭を入れ直して、次の取替え用にするものだ。

付け替えたストーブのなかなか着火しない石炭に、どうすれば火が付きやすいか、色々と工夫をして着火させ、その後もままならぬ

い火力の調節を下にある小窓の開閉でしたものだが、暖かさは抜群であった。

このような状況だったから、もちろん暖房器具は居間に一つ。他の部屋は何処に行っても寒いから、自ずと家族がそこに集まって来る。そうすると、そこには、いつしか始まる家族の団欒があった。

他愛の無いことを話題にしながらも、その中に、人生訓・生活の知恵などが語られ、そして、家族での遊びがあったように思う。

